

# 中央区内景气动向调查

平成 28 年 8 月調査結果

平成 28 年 9 月 20 日

中央区

## 総 括

### 平成 28 年 8 月の動き

中央区内における 8 月の現状判断 D I は合計で 42.3 と、前回調査から 1.8 ポイント上昇している。景気の先行き判断 D I は合計で 51.5 と前回調査から 5.0 ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I (合計)

( D I )	平成28年			前回調査 からの変化
	4月	6月	8月	
合計				
現状判断 D I	44.0	40.5	42.3	( 1.8 )
先行き判断 D I	46.5	46.5	51.5	( 5.0 )

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 28 年 8 月調査の調査票発送は 8 月 5 日（金）、回答期限は 8 月 17 日（水）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 49 名、有効回答率は 98.0%であった。

### 7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

# 1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で42.3と、前回調査から1.8ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは40.6と、前回調査から1.6ポイント上昇し、企業動向関連DIは44.0と、前回調査から2.0ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が9.1ポイント増加、「悪くなっている」と回答した人の割合は5.9ポイント減少した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

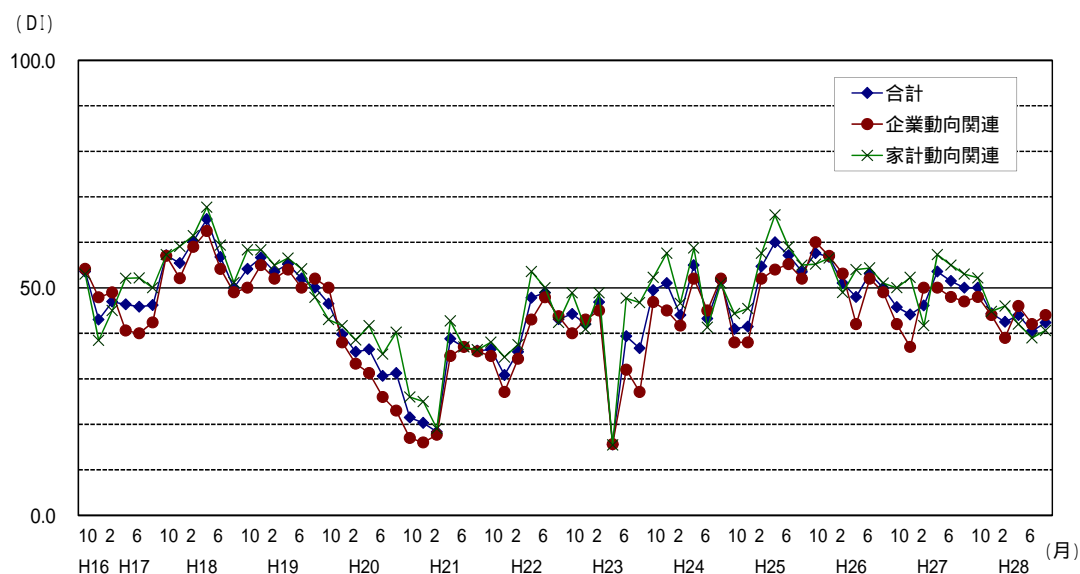
(DI)	平成28年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	44.0	40.5	42.3	(1.8)
家計動向関連	42.0	39.0	40.6	(1.6)
小売関連	30.8	30.8	45.8	(15.0)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	53.6	50.0	39.3	(-10.7)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	46.0	42.0	44.0	(2.0)
製造業	45.8	37.5	41.7	(4.2)
非製造業	46.1	43.4	44.7	(1.3)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	構成比				
		良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成28年	4	0.0%	20.0%	42.0%	32.0%	6.0%
	6	0.0%	14.0%	44.0%	32.0%	10.0%
	8	0.0%	10.2%	53.1%	32.7%	4.1%
(変化幅)		(0.0)	(-3.8)	(9.1)	(0.7)	(-5.9)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



## 2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で51.5と前回調査から5.0ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは51.0と、前回調査から5.0ポイント上昇し、企業動向関連D Iは52.0と、前回調査から5.0ポイント上昇している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が7.1ポイント増加し、「悪くなる」と回答した人の割合が6.0ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

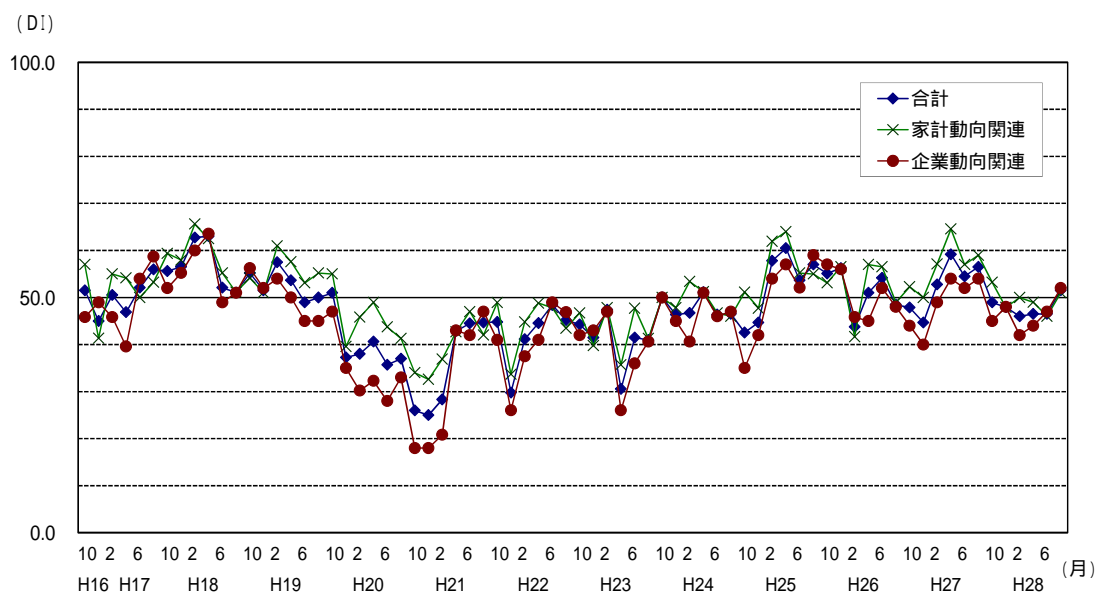
(D I)	平成28年			
	4月	6月	8月	(変化幅)
合計	46.5	46.5	51.5	(5.0)
家計動向関連	49.0	46.0	51.0	(5.0)
小売関連	44.2	38.5	52.1	(13.6)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	50.0	57.1	50.0	(-7.1)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	44.0	47.0	52.0	(5.0)
製造業	33.3	50.0	37.5	(-12.5)
非製造業	47.4	46.1	56.6	(10.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成28年	4	0.0%	20.0%	52.0%	22.0%	6.0%
	6	4.0%	16.0%	48.0%	26.0%	6.0%
	8	2.0%	22.4%	55.1%	20.4%	0.0%
(変化幅)		(-2.0)	(6.4)	(7.1)	(-5.6)	(-6.0)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

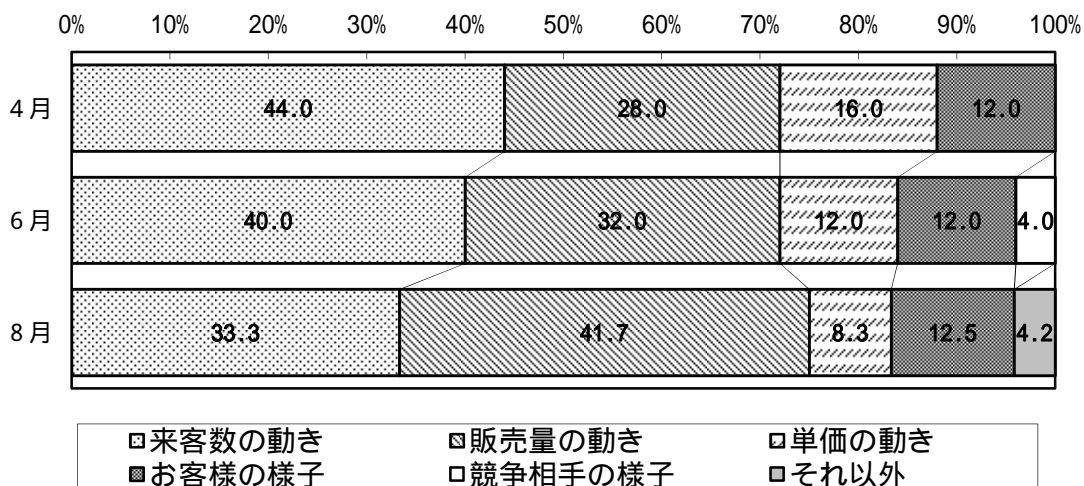
(D I)	平成28年		
	4月	6月	8月
合計	43.5	41.5	41.3
家計動向関連	40.0	39.0	35.4
小売関連	30.8	25.0	31.3
飲食関連	-	-	-
サービス関連	57.1	60.7	46.4
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	47.0	44.0	47.0
製造業	45.8	45.8	50.0
非製造業	47.4	43.4	46.1

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

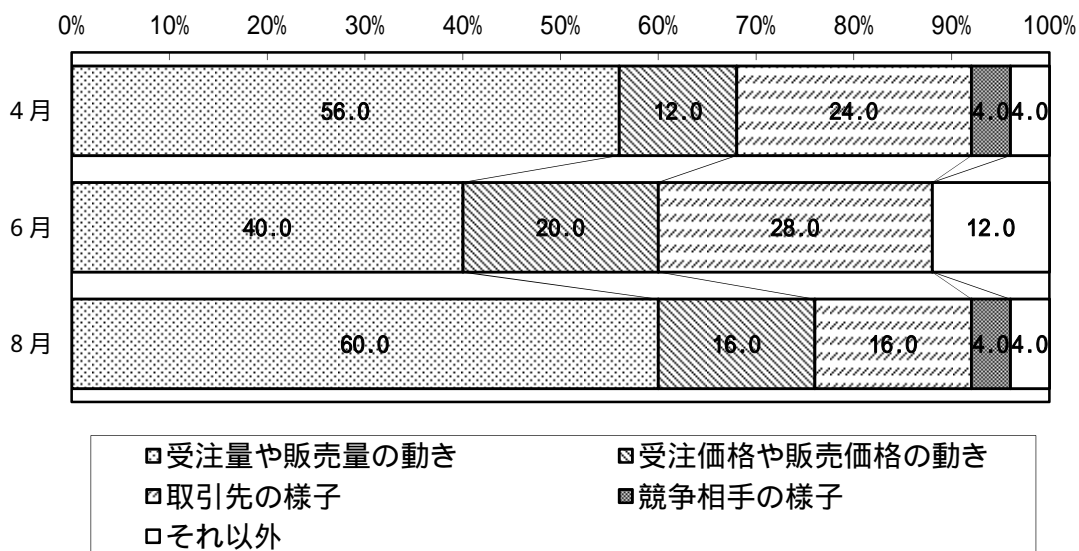
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。



## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなる	-	-	-
	やや良くなっている	衣料品専門店 (店長)	それ以外	・東京駅やその周辺の再開発がさらに活発になり、来客の絶対数は増加傾向にある。
	変わらない	一般小売店 [ 文具 ] (販売担当)	単価の動き	・高額品の単価が低下している。
		百貨店 (総務担当)	お客様の様子	・訪日外国人の買物内容が変化し、客単価が低下している。国内客の買上は足踏み状態である。
		百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・クリアランスセールも堅調に推移している。一般的に紳士服、洋品雑貨、特選は堅調であるが、婦人服、宝飾品の売上が伸び悩んでいる。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・1品単価は上がっているが、1人当たりの買上点数は前年から横ばいである。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・客1人当たりの買上点数が落ち込んでいる。
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・外国人観光客数は減少傾向であるが、全体の来客数は前年比104%となっている。夏物のセール在庫が多かったこともあるが、8か月振りに前年の来客数を上回っている。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・例年、夏場は閑散期ととらえているが、特に今年の場合は営業日数も少なく、来客数も減少しているため、販売量も少ない。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・例年3か月前は、ゴールデンウィークなどいろいろなイベントがあり忙しい時期である。8月も全国から客が来て忙しくなるので、3か月前と比べると景気は変わらない。
		通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・夏期に入り、販売数に動きが見られない。
	やや悪くなっている	一般小売店 [ 食品 ] (店長)	販売量の動き	・前月からの低下傾向がどうも上昇気運にならない。客層が一般に財布のひもが固いというが、多少沈んだ雰囲気である。
		百貨店 (広報担当)	単価の動き	・高額品はセールになっても動きが鈍い。
		コンビニ (店長)	来客数の動き	・本来は7月後半から8月前半が最も売上の伸びる時期であるが、今年は伸び悩み、前年より1割以上減少と苦戦を強いられている。
		高級レストラン (副店長)	来客数の動き	・梅雨が終わって暑さが厳しくなると、高齢者の外出が減少する。天気予報などで高温注意報が出るとなおさらである。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・外国人観光客の落ち込みは少ないが、国内客の来客数が落ち込んでいる。
		その他レジャー施設 (経営者)	来客数の動き	・メンバーがそろうまでの客の会話を聞いていても、景気の良い話は聞けない。
		悪くなっている		
	企業 動向 関連	良くなる	-	-
やや良くなっている		輸送業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月比で売上、受注量が増加している。
		その他サービス業 [ 造園・園芸 ] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・オリンピックの開催、内閣の一新、選挙等に伴い、各所から受注がある。
変わらない		出版業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・人が動く時期であるが、本の販売量に変化はなく、また広告量も増加の兆しはない。
		印刷業・製本業 (営業担当)	競争相手の様子	・地方から首都圏に下請けの価格で参入する同業者の増加が目立って、価格競争が激化している。
		通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・経済活動全般に停滞感が感じられる。
		金融業 [ 証券 ] (営業担当)	取引先の様子	・6月次四半期ベースの企業業績開示を見ると、かなりバラつきはあるものの、総じて本業である営業利益ベースでの実績が低調であるように見受けられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	取引先の様子	・通年売上のある物件の購入時期が、来月以降にずれ込む。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注問い合わせ、現場調査等の依頼はあるが、成約してもコスト的に厳しい。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・商店街の客足が悪いので、店主の顔色も冴えない。
		印刷業・製本業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・現在は大きな物件が動いているため短期的には良いが、全体で見ると動きがない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年のごとく、夏休みを控え業界内の動きが低調で、一休みとなっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・夏に向けてにぎわう商店街だが、今年は特に観光客などが少なく前年比80%くらいの飲食店が多くなっている。
	悪くなっている			

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	・参議院選も終わり、英国のEU離脱問題も落ち着いたことで円高も落ち着くとの予測から、消費動向は良くなる。
		衣料品専門店(店長)	・冬期はイベントが多く、プレゼント需要、レジャー需要などが増える。現在はコスメ等モノよりコトにお金を使う傾向があるので、景気も上がってくる。
		高級レストラン(副店長)	・10月に入って暑さが落ち着けば、来客数が増える。
	変わらない	一般小売店〔靴〕(店長)	・株安、中国経済の不振、英国のEU離脱問題など、日本企業が影響を受けることがある。
		一般小売店〔食品〕(店長)	・雰囲気が変わりそうな心配がない。リオデジャネイロオリンピックのメダル獲得にあやかり、消費マインドも良くなるとうい。
		百貨店(総務担当)	・訪日外国人の買物内容変化による客単価の低下、国内客の買上足踏み状態が今後も続く。
		百貨店(総務担当)	・免税販売額は好調に推移しているものの、全般的には良い要因が見受けられず、引き続き注視が必要である。
		百貨店(業務推進担当)	・ここ2～3年変動がないように思える。特にアパレル系の盛り上がりはない。新作スマートフォン向けゲーム等の盛り上がりはあったが、景気にはあまりつながらない。
		百貨店(広報担当)	・円高、株安、米金利など世界経済の状況に大きな変化がない。
		スーパー(店長)	・インバウンド需要が以前に比べ弱くなっているが、商圏内の人口流入はかなり増えている。
		コンビニ(店長)	・明確な理由が見つからない売上ダウンは、いかにお金を使わないか、ということが当たり前になっている客の意識のためである。
		高級レストラン(経営者)	・例年、夏季から秋にかけて提供食品の種類が多くなり、味覚を楽しむ上で和食の選択が増す。飲酒においても同様のことが言える。社会全体の接待需要が増加すれば、それに伴い当業種の景気も上昇する。
		一般レストラン(経営者)	・周りとの変化があるため、景気はあまり良くならない。
		都市型ホテル(経営者)	・地方の景気がいまだ回復せず、地方の方を客とする業種にとっては厳しい状況が続く。
		旅行代理店(支店長)	・販売量も横ばいであり、今後景気回復につながる要素も見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・社会全体の動きで、景気の底上げをしないと何も変わらない。
		通信会社(営業担当)	・消費意欲をかきたてるイベント等がない。
	競馬場(職員)	・来客数に明確な変化の動向が見られない。	
	設計事務所(所長)	・将来の状況は全く見通しが立たず、好転する材料がない。	
やや悪くなる	スーパー(店長)	・夏の必需の飲料が大きく伸び、店全体の来客数に貢献しているが、基本となる生鮮食品や嗜好品、酒類などは売上数量や来客数で落ち込んでいる。	
	一般レストラン(経営者)	・8月の夏休みが終わると観光客は少なくなり、夏にお金を使うので来客数も減少するが、10月以降はいろいろなイベントがあるので増加する。	
	その他レジャー施設(経営者)	・客層に高齢者が多いため、体調を崩す方が一人でも出ると一組がなくなる。小さな店では一組の客の減少でも月にすれば大きい。	
悪くなる	－	－	
企業 動向 関連	良くなる	卸売業〔繊維・衣服等〕(営業担当)	・秋物現品のスタートなので、夏場よりはましである。
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・年末に向けて、いろいろな政策が打たれば、多少は良い方向に行く。
		建設業(営業担当)	・景気対策で追加予算が期待できる。
		金融業〔証券〕(営業担当)	・アメリカ大統領選が秋に終われば、日本も落ち着いて次の政策を打てると思われる。株高に向けた対策が打たれると予想している。
		卸売業〔食料品(鮮魚)〕(経営者)	・市場の移転で駆け込み観光が増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		卸売業〔機械器具〕 (営業担当)	・受注のずれはそのまま1～2か月後に売上計上できる。
		その他サービス業〔造園・園芸〕(営業担当)	・年末に向け、ハロウィン、クリスマス、正月等イベント事が多くなり、受注が期待される。
	変わらない	建設業(経営者)	・変わらないというより分からないといったほうが適切である。アメリカ大統領選、英国のEU離脱問題に伴う世界経済の変動、円高による日本経済への影響等々分からないことばかりである。足元を見つめて一步一步進んでいくのみである。
		建設業(営業担当)	・2～3か月は手持ちの仕事が多々あるため、特に変化はないと思われる。
		輸送業(従業員)	・受注量や販売量がそんなに変化しない。
		通信業(営業担当)	・プラス要因が見られない。
		通信業(営業担当)	・サービス業はデフレ解消の見込みがない。一時的に円高期待もあるが、円安トレンドで輸出系も変化が見込めない。建設業は多忙とのコメント多い。
		卸売業〔機械器具〕 (経営者)	・低水準の状態が続いており、活発になる要素がない。
		卸売業〔機械器具〕 (従業員)	・公共工事の受注競争が厳しさを増しており、計画通りに進捗していない。後半に期待したいが、資材、人件費の値上がりも懸念材料である。
		経営コンサルタント	・集客が多い場所と少ない場所が二分されていくように感じる。中央区の観光地、施設を含めて、より魅力的になるよう地域で考えていかないと景気が後退していく。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	・参議院選、都知事選、リオデジャネイロオリンピック等の一連の中でも、中小企業の足元の景気は弱々しいままである。
	やや悪くなる	新聞業(営業担当)	・リオデジャネイロオリンピック関連のスポンサー企業などからの広告出稿が、オリンピック開催前から期間中にかけて見込めるため、7～8月は若干需要が上向く。ただし、オリンピック後はその反動もあり、景気全体は若干減速することも懸念される。
		出版業(経営者)	・アベノミクスの破たんは明らかである。日銀のお札をばらまけば景気が改善されると思うのは、幼児思考と変わらない。
		出版業(営業担当)	・円高、株安が続く限り良化は望めない。また政府、日銀の経済政策も期待が持てない。
		印刷業・製本業(営業担当)	・現在が良いのでこれよりも良くなることはない。むしろ、かなり下降気味だと思う。
		金融業〔証券〕(営業担当)	・中国の景気減速、英国のEU離脱問題といった外的要因の不透明さが継続しており、当面は為替の円高硬直が持続すると思われる。現在の水準は各社の想定からかなりかい離していることから、今しばらくは下向きにとらえている。
		不動産業(企画担当)	・高止まりしている住宅販売平均価格は、高額物件の売行きからなかなか下落してはいないが、一般需要の物件価格が下落傾向にあり、いずれ下がると思われるため、高値仕入物件の利益が圧迫される。
	悪くなる	—	—

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	13
	商店街・一般小売店	4
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	4
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	1
	設計事務所所長・職員	1
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	6
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	6
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	3
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	19
	建設業	3
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0